

友部和弘 著

## 『刺絡の道——三輪東朔から工藤訓正——』

著者友部和弘氏は、鍼灸治療家であり、鍼灸医学史の研究者であり、またかつて筆者が北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部に奉職していた時に親交を結んだ先輩でもある。鍼灸治療家に多少知人を持ちながら、筆者自身は鍼灸治療・鍼灸医学史全般について極めて疎いが、現在我が国で行われている鍼灸治療には、(適切な表現ではないかもしれないが) かなり多くの流派があり、学会・研究会など多くの団体が活動している。

本書のタイトルにある「刺絡」も、鍼灸治療の一種である。必ずしも馴染みのある言葉ではないと思われるので、その説明から始めよう。辞典類の解説では「刺絡」は「瀉血」治療のひとつと言われることもあるが、「瀉血」という言葉から連想される西洋で広く行われていた大量の血液を放出する治療とは異なるもので、中国医学古典の『靈樞』血絡論第39に典拠をもつ用語である。鬱滞する部位に対して少量の出血を伴う刺鍼を行い、それによって全身の「気」「血」の循環を改善する治療法である。

著者は鍼灸治療の中でも「刺絡」治療を専門に行っている臨床家である。著者によれば、本書の副題にある二人の人物は、日中伝統医学の歴史において、刺絡治療を専門としたほとんど唯一(唯二)の臨床家であり、前者三輪東朔は江戸時代後期の江戸の人、後者工藤訓正は三輪の著作から学んで20世紀に刺絡を復活させた人物であり、また著者の師に当たる。その意味で、本書は「刺絡」治療の実際を熟知するとともに、その治療法の歴史にも通じた筆者による、またとない「刺絡」概説書となっている。

本書の目次を次に紹介しておこう。

- 第1章 三輪東朔の著述とその伝記
- 第2章 三輪東朔の伝記考
- 第3章 瀉血療法の歴史と『刺絡名家』収録人名・書籍
- 第4章 刺絡の歴史に関する研究

第5章 中神琴溪の刺絡抜粋

第6章 三輪東朔と工藤訓正の刺絡

第7章 刺絡講義録

付録 三輪東朔の著述影印収録

『葉真途医語』

『施本大和医語』

『刺絡聞見録』

『三輪氏家蔵方妙薬集』

第1章・第2章において、筆者は関連文献をよく渉猟し、三輪東朔の伝記をできる限り明らかにしている。三輪東朔は全くその足跡が不明というわけではないが、いまひとつその経歴がはっきりしない人物であった。そこで従来注目されてこなかった『葉真途医語』『施本大和医語』『三輪氏家蔵方妙薬集』などの稀少な資料を用いて、従来の知見を前進させている。和方家佐藤方定との関係など、興味深い、今後さらに追及していただきたい問題も指摘されている。

第3章・第4章は日中医学史における「刺絡」史概説に当たる部分である。工藤訓正の著書『刺絡名家』を土台として、李東垣・曲直瀬道三・郭志遠・中神琴溪・豊浦元貞・三谷公器・杉田成卿・垣本鍼源・菅沼周圭らの著書から各々の「刺絡」を検討している。

第5章において、特に中神琴溪について取り上げ、三輪東朔がその「刺絡」に異論を唱えているという理由から、詳細にその実態を検討して両者の異同を明らかにしている。

第6章・第7章において、三輪東朔と工藤訓正の「刺絡」治療をその考え方と治療法を紹介しつつ、実際に著者が考える「刺絡」治療について詳説している。

付録されている三輪東朔の著書の影印も研究資料として貴重である。 (町 泉寿郎)

[たにぐち書店、〒171-0014 東京都豊島区池袋 2-68-10, TEL. 03 (3980) 5536, 2019年, A4判, 208頁, 3,500円+税]